

あけまして

おめでとうございます



代表取締役社長
中富 一郎

株主・投資家の皆様におかれましては、良いお年をお迎えになられた事とお慶び申し上げます。

昨年末のネイチャー誌 (NATURE Vol1491, S58-60, 22 November 2012, OUTLOOK PHYSICAL SCIENTISTS TAKE ON CANCER)において、ナノテクノロジーを利用した医薬品開発について総説が発表されました。この中で、片岡一則教授らの研究成果や当社パイプラインが取り上げられ、開発が最も進んでいる品目として紹介されております。世界でも当社のミセル化ナノ粒子技術について関心が高まっていることを示しており、今後の開発に注目が集まっている実例です。

昨年の当社は、がん治療薬のさらなる開発推進のための経営資源をいかに調達し、有効に活用するかに注力した年でありました。その成果を基に、最重要パイプラインとして位置づけた NC-6004 ナノプラチンや NC-4016 ダハプラチンミセルは開発を順調に進めており、NC-6300 (K-912) エピルピシンミセルは臨床試験入りを目指しております。それに加えて、基礎段階にある新規パイプラインとして位置づけるタンパク質や核酸からなる新しい高分子医薬品や分子標的薬など、新しい低分子医薬品については提携を含めて優れた候補薬の追加を図ることです。中でも、NC-6004 ナノプラチンは、国内で臨床試験を開始しましたが、今後米国でも開始します。オリエント・ユーロファーマ社とはアジア地域で共同開発を推進して参りましたが、新たに製造権を付与するライセンス契約を締結したことで、開発推進に続き、世界へ発信できる供給体制を築きました。今後は、最速で開発を進め、国内を含むアジア地域から欧米へ、さらには対象疾患の拡大など、ナノプラチンの開発を拡大して参ります。

当社コア技術の重要な材料となる高度な高分子の合成技術において、素材供給に関する世界のリーディングカンパニーである信越化学工業との提携関係を築いたことは、今後ミセル化ナノ粒子素材がさらに進化していくとともに、充実した供給体制と将来の製品拡張に繋がるものと期待し、品質向上とともに研究を推進して参ります。

本年は、特に最重要パイプラインに経営資源を集中し、企業価値を最速で極大化するためのグローバル対応の重点戦略目標を定めて、研究開発および事業開発の活動を推進して参りますので、引き続きご支援を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。

末筆ではございますが、本年が皆様にとって良い年となりますよう祈念いたしております。

2013年1月1日